

日々の創意工夫にVEを!

公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会 会長
近藤 史朗



「アハ体験」という心理学用語があります。テレビ番組でよく見られるのは、1枚の絵の一部が少しずつ少しずつ変化していくのですが、じっと見ていると、どこが変化しているのかわからない。ついには絵が大きく変わってしまっているのですが、なかなか気づかない。

何度か繰り返し見ることによって、「ああ、そうか!」と、変化した部分に気がつく。その緊張が解けると同時に感じる大きな喜び、そのような感覚を体験することで、関係する脳の回路を強化できるのだそうです。

ここで注目したいことは、気づかれにくいような小さな変化が、時間の経過とともに大きな変化につながるということです。気づかれにくいような小さな変化の積み重ねが、やがては革新ともいべき大きな変化になるということ。

企業経営に置き換えて言えば、日々の創意工夫の積み重ねが、時間の経過とともに大きな革新になるということです。VEを革新のツールととらえれば、一時的なプロジェクト活動だけで終わらせてはもったいないのです。日々の創意工夫にこそ、VEをどんどん活用すべきだと思います。

もちろん、特定課題についてプロジェクトを組み、劇的な革新を追求するような活動も必要です。ただ、「アハ体験」が脳回路を強化するように、日々の小さな創意工夫、努力の積み重ねが、企業体質を強化していくのではないかと思います。

そう考えれば、企業におけるVEの必要性、重要性は、自ずと高まるはず。また、企業経営に限らず、VEはあらゆる領域で応用できるものだと思えます。

さて、私が本会の会長を拝命してから4年が経過します。就任時に掲げた課題は、次の4つでした。

- (1) VEの原点回帰（商品の競争力強化）
- (2) マネジメントプロセスの改革
- (3) VE的経営の実践
- (4) VEの新しい挑戦領域の探索

商品の競争力強化については、コスト低減への貢献のみならず、イノベーションを促進させることが必要と考え、新たにバリューデザイン・ラボという組織をつくり、「不便益」という新たな概念との融合活用を目的に研究を進めております。先のVE全国大会でも、多くの方々の関心を集めることができました。

マネジメントプロセスの改革については、製造領域のみならず、非製造領域、自治体等の公共機関、飲食業などのサービス分野、あるいは医療の分野などへもVE適用を探っていき、VE全国大会でも事例を発表していただきました。

VE的経営の実践につきましては、「経営者フォーラム」を立ち上げ、経営層の方々にもVE的思考に触れていただける機会を設けました。

新しい挑戦領域の探索については、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟様の協力も得て、学校教育の場でVE的思考を活用できないかと、ESD（持続可能な開発のための教育）へのVE思考導入に向けた検討や活動を始めました。

また、本会の財務基盤強化のため、企業の個別ニーズに応える活動や、上海VE協会との提携など海外への展開にも積極的に取り組みました。

これら一つひとつは小さな努力かもしれませんが、継続させることによって、やがて大きな革新につながることを期待しております。

VEおよび本会のますますの発展に向けて、引き続き皆様方のご支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。